

音楽科学習指導案

日時 令和4年2月8日(火)
6校時 14:25 ~ 15:10
学校名 文京区立駕籠町小学校
対象 第4学年1組 29名
会場 4階 音楽室
授業者 指導教諭 金田 美奈子

- 1 題材名 日本の楽器の音色やせんりつの移り変わりを感じ取ってきこう
(小学生の音楽4：教育芸術社)
- 2 題材の目標
曲想及びその変化と、我が国の楽器の音色や旋律の変化との関わりに気付き、それらの働きが生み出すよさや美しさを見いだしながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。
- 3 指導事項との関連
B 鑑賞(1)ア イ [共通事項] (1)ア
(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」「旋律」「変化」)

4 題材の評価規準

知識・技能(知・技)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
知 「こと独奏による主題と6つの変奏『さくら』」の曲想及びその変化と、楽器の音色や旋律の変化との関わりについて気付いている。	思 楽器の音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。 思 楽器の音色の特徴や旋律の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。	態 曲想及びその変化と、我が国の楽器の音色や旋律の変化との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に「こと独奏による主題と6つの変奏『さくら』」を聴く学習に取り組もうとしている。

5 児童の実態と題材設定の理由

第4学年の児童は、2年時に「さんさおどりの太鼓」「八丈太鼓」「津軽じょっぱり太鼓」「御陣乗太鼓」を聴いた経験を踏まえて長胴太鼓による音楽づくりを経験し、また3年時に祇園囃子と神田囃子を聴き比べた後、神田囃子の太鼓のリズムを口唱歌や締太鼓で演奏する経験をした。その上で、今年度は富山県五箇山地方の民謡「こきりこ」の楽器を使った演奏を経験している。音楽の授業で学習した内容を自宅でさらに調べてきたり、動画を見て「こきりこ」の舞踊を練習してきたりする児童もいるなど、学校での学習をきっかけに興味をもったことについて深く学ぼうとする意欲に溢れている学年である。

本題材で児童の思考・判断のよりどころとなる「音色」は、児童にとって言語化しにくい要素である。そこで、本題材では、箏の音色について実際の音を通して知覚・感受することができるようにするために、箏で「さくら さくら」を演奏したり様々な奏法を試したりする場を設定する。また、4月に歌った「さくらさくら」の主題が、奏法や旋律の変化によってどのように移り変わっていくのかを楽しみながら聴くことができるよう、「こと独奏による主題と6つの変奏『さくら』」(藤井凡大作曲)を教材として取り上げる。このような学習を通して我が国の楽器を使った変奏曲に親しみ、曲全体を味わいながら聴く力を育成していきたいと考え、本題材を設定した。

6 教材について

「こと独奏による主題と6つの変奏『さくら』より（藤井凡大作曲）

「さくら」を主題として6つの変奏と後奏で構成されている。押し手や合わせ爪や割り爪、後押しなど江戸時代からの奏法に加えて、ピッチカートやグリッサンドなど明治時代以降に西洋音楽の影響を受けて演奏されるようになった奏法が用いられている。

全曲を鑑賞すると5分30秒ほどかかるため、本題材の教材としては、主題、第1変奏、第4変奏、第5変奏、第6変奏、後奏を取り扱う。

7 題材の指導計画と評価計画(全4時間)

時	目標	○ 学習内容 ・ 学習活動	評価 (評価方法)		
			知・技	思	態
第1時	楽器の音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える。	○ 箏、津軽三味線、三線の奏法と音色の知覚・感受 ・ 箏、津軽三味線、三線の演奏を聴いて、楽器の音色について気付いたことや感じたことを友達と共有する。 ・ 映像を見ながら聴き、奏法や演奏している時に使っているばちや爪について知る。 ・ 3人組で箏を演奏し、音色を確かめる。 ・ 箏で「さくらさくら」の冒頭部分を演奏する。 ・ 「こと独奏による主題と6つの変奏『さくら』」の主題を聴く。		思 (発言、演奏、記述)	態 (発言、演奏、記述)
第2時 (本時)	曲想及びその変化と我が国の楽器の音色や旋律の変化との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に「こと独奏による主題と6つの変奏『さくら』」を聴く学習に取り組む。	○ 箏の音色や旋律の変化の知覚・感受 ・ 「こと独奏による主題と6つの変奏『さくら』」の主題、第1変奏、第4変奏、第5変奏、第6変奏を聴く。 ・ 実際に箏で音を出して確かめながら、曲想の変化と奏法による音色の変化や旋律の変化との関わりについて、友達と考えを交流する。			態 (発言、演奏、記述)
第3時	「こと独奏による主題と6つの変奏『さくら』」の曲想及びその変化と、楽器の音色や旋律の変化との関わりに気付く。	○ 楽曲の理解 ・ 「こと独奏による主題と6つの変奏『さくら』より」を聴いて、奏法による音色の変化や旋律の変化について気付いたことや感じたことをまとめる。	①知 (発言、記述)		態 (発言、記述)
第4時	楽器の音色の特徴や旋律の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを見出し、曲全体を味わって聴く。	○ 楽曲の批評 ・ 「こと独奏による主題と6つの変奏『さくら』」の曲想の変化と奏法による音色の変化や旋律の変化との関わりやよさや美しさについて、自分の考えをまとめる。 ・ 箏の奏法による音色の変化や旋律の変化について触れながら、担任に向けた紹介文を書く。		思 (発言、記述)	態 (発言、記述)

8 本時(全4時間中の第2時)

(1) 本時の目標

曲想及びその変化と、箏の音色や旋律の変化との関わりに関心を持ち、「こと独奏による主題と6つの変奏『さくら』」を聴く。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	☆ 指導上の留意点 配慮事項	□評価 (評価方法)
導入 5分	・「さくらさくら」を演奏する。	☆箏の音色を聴きながら演奏するよう指示をする。	
展開 35分	<p>○本時のめあての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 主題がどのように変化しているのかを感じ取ろう。 </div> <p>○奏法による箏の音色の変化や旋律の変化の知覚・感受</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こと独奏による主題と6つの変奏『さくら』」の主題を聴く。 ・第1変奏、第4変奏、第5変奏、第6変奏を聴く。 ・映像を見ながら聴き、奏法について確かめながら聴く。 ・実際に箏で音を出して確かめながら、曲想の変化と奏法による音色の変化や旋律の変化との関わりについて、友達と考えを交流する。 ・もう一度「こと独奏による主題と6つの変奏『さくら』」を聴き、学習カードに聴き取ったことや感じ取ったことをまとめる。 	<p>☆旋律の特徴を捉えることができるように手で旋律の上行・下行を表しながら聴くよう指示をする。</p> <p>☆どの変奏を聴いているのか分かるような掲示の工夫をする。</p> <p>☆奏法によって様々な音色が出ることや旋律の変化に気付くことができるよう、箏で実際に演奏しながら、気付いたことを友達と共有するよう指示をする。</p> <p>☆次の時間の学習に向けて、紹介文を書くために必要なことをまとめるように指示をする。</p>	<p>態 曲想及びその変化と、我が国の楽器の音色や旋律の変化との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に「こと独奏による主題と6つの変奏『さくら』」を聴く学習に取り組もうとしている。 (発言、演奏、記述)</p>
まとめ 5分	<p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こと独奏による主題と6つの変奏『さくら』」を聴いた経験を踏まえて、曲想と箏の音色や旋律の変化との関わりについて自分が考えたことをまとめる。 		